別紙様式２－２

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」成果報告書

受託団体名	鹿児島大学

Ⅰ　概要

１　モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 鹿児島大学	特別支援学校	知的障害	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（かごしまだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう）

２　研究課題

知的障害教育においてカリキュラム・マネジメントの実現を図る方策及び手続きを明らかにするための研究

３　研究の概要

これまで本校が実践を通して整理した「本校の児童生徒に育てたい資質・能力（以下，本校で育てたい資質・能力）」に基づく授業づくりの取組や，日常的な授業研究を通した授業改善及び教育課程の評価・改善に向けた取組を土台にして，次に示す取組を行った。

１　これまでの本校の取組で整理した「本校で育てたい資質・能力」を各学部の児童生徒の実態に応じて具体化するために，各学部の経営方針等に示してある児童生徒に育てたい力や目指したい姿を，「本校で育てたい資質・能力」の項目（基礎・基本，主体性，思考・判断・表現，人間関係）に沿って整理した。

２　「本校で育てたい資質・能力」を育むための各教科等を合わせた指導の授業づくりの在り方について，知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等（以下，各教科等）の目標及び内容を踏まえた単元指導計画の作成や，日々の授業研究の取り組み方などを中心課題に据え，各学部の授業づくりの実践を通して検討した。

３　各指導の形態の単元（題材）で扱う各教科の内容を明確にした上で，年間を通した単元（題材）の配列を検討した。

４　「本校で育てたい資質・能力」の育成を目指した授業実践を行うために，年間指導計画や個別の指導計画に示す必要がある内容や具体的な様式を検討した。

５　各学期に実施した各教科等の単元（題材）の取組について，次期学習指導要領で示された育成を目指す資質・能力の視点で児童生徒の学びの姿や学習活動，手立てなどの総括的評価を行った。

６　カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組について，現在設置している教育課程委員会の機能を確認するとともに，次年度の運営の在り方を検討した。

４　研究の成果

２で示した取組に関する成果について，以下，項目別に示す。

１　各学部の経営方針等に基づいて整理することで，児童生徒が資質・能力を身に付けたり発揮したりしている姿を，各学部の児童生徒の発達の状態や学習及び生活経験などを踏まえて具体的に示すことができた。
２　各教科等を合わせた指導において各教科等の目標や内容を十分に踏まえるためには，年間指導計画や単元指導計画の中で「どの教科の，どの内容を，どのような学習機会（活動）で学習できるようにするか」などを明確に示すことや，日々の授業研究を行う際に資質・能力の育成という視点で児童生徒の学びの姿を多面的に評価したり，具体的な学習活動や手立てなどを検討したりすることが重要であることが示唆された。
３　各教科等の内容を扱う具体的な学習機会について教員相互でアイデアを出し合ったり，児童生徒の学校生活等を考慮して単元（題材）の構成を検討したりすることで，単元（題材）で扱う各教科の内容を整理し，明確に示すことができた。
４　現行の年間指導計画の課題等を基に，資質・能力の育成という視点で年間指導計画に示す必要がある内容や様式，具体的な記入の仕方などを検討，整理することができた。
５　各単元（題材）で目指した児童生徒の学びの姿を，育成を目指す資質・能力の視点で具体的に示すとともに，実際の実践を通して有効であった学習活動や手立てなどを記録することで，実践を根拠にした次年度の教育課程編成（年間指導計画の評価・改善）を行うための資料を蓄積することができた。
６　カリキュラム・マネジメントの充実という観点で，従来設置してきた教育課程委員会の機能を評価することで，検討内容や校務分掌に基づく委員会の構成員など，次年度の運営に向けて具体的な方策をまとめることができた。

５　課題と今後の方策

教育課程の編成から授業に至る取組については，「本校で育みたい資質・能力」の項目に沿って各学部で目指したい児童生徒の姿を明確にすることができた一方で，本年度は各学部での取り組みが中心であったため，学部間の系統性が読み取りにくいなどの課題が残った。今後は，各学部で整理した内容の系統について更に検討するとともに，整理した内容を授業づくりや実践の評価・改善の過程でどのように活用するか吟味する必要がある。また，「本校で育みたい資質・能力」の育成を目指した授業に向けて単元（題材）を構成したり，日々の授業改善を図ったりするためには，年間指導計画や個別の指導計画で示す必要がある内容を引き続き検討するとともに，指導内容や目標を設定する手続きや，児童生徒の学びの姿を学習活動，手立てなどを評価・分析するための視点を明確にし，教師間で十分に共有して実践に臨む必要がある。

日々の学習評価と教育課程の評価・改善を連動させる取組については，次年度に向けた教育課程編成の知見となり得る情報を授業者による単元（題材）の総括的評価から蓄積できるようになった一方で，それらを学部会や教科等部会などで整理・検討する機会を確保することなどが課題として残った。この課題を踏まえ，次年度の年間指導計画等の編成に活用するための具体的な取組を整理し，実践することが必要である。

カリキュラム・マネジメントに係る一連の取組を支える組織づくりについては，教育課程委員会の更なる機能化に向けて本年度取りまとめた具体的な方策に基づいて実践し，その効果を検証する必要がある。